

10万人首切り・選別の開始＝広域配転

日刊 動労千葉

86. 3. 6
No. 2184

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二二七～七

国鉄当局は三月四日、「余剰人員の地域的アンバランスを調整する」として北海道、九州から東京、名古屋、大阪地区へ第一陣として三四〇〇人の広域配転計画を明らかにした。これは「分割・民営化」への既成事実作りである。この計画を断じて許すな。

七月末までに第一陣の配転完了

政府・国鉄当局は、動労革マル・鉄労・全施労の完全協力、そして国労中央の無方針と屈服を背景に、国鉄関連五法案の閣議決定、広域配転計画の推進と、「分割・民営化」―「62・4・1」移行を目標としたかさにかかった攻撃を強めている。

「分割・民営化」の既成事実作りの広域配転計画は、今月二十日から直ちに募集を開始し、条件が整い次第順次配転を行ない、七月末までには三四〇〇人（北海道の二五〇〇〇人、東京・千葉へ一五〇〇名、名古屋へ九〇〇人、九州の九〇〇人、大阪）全員の配転を完了し、その後、宿舍の確保状況等を勘案し第二陣を送りこむというものである。

運転＝二人に一人の首切り

広域配転は、「分割・民営化」の既成事実作りであるとともに、「過員」の平準化をもって具体的に全国において「三人に一人」、運転では「二人に一人」の首切りを貫徹する凶暴な攻撃である。

当局はこの間、労働者の闘いを圧殺するため、関東や千葉では「七人に一人」「六人に一人」などとデマキャンペーンを張ってきた。しかし、動労千葉が指摘した通り、今やその化けの皮が完全にはがれた。

当局＝動労革マル一体の攻撃

広域配転攻撃は重大な組合解体、とりわけ国労解体攻撃である。

当局は「移動先での希望（新会社）は可能な限り優先的に配慮」と新会社へのパスポートをちらつかせつつ、北海道からの二五〇〇〇人の内一五〇〇〇人が動労「本部」と言われているように、あらかじめ国労を差別するというやり方で国労組合員の国労ばなれを促進するといううすぎたないやり方を行っている。

しかも配転に応じたもの＝当局の協力者は「優先」という事であるから、当然配転先において、しめ出される労働者との間で同じ組合員どうしの対立という事態が引き起こされる。

こうした揺さぶりの上で、当局は、国労本部を無視し、各地方毎に当局への協力の度合により雇用安定協約を結ぶという動きを見せている。

まさに闘わねば国労解体の危機＝国鉄労働運動総体の奴隷化の危機に直面している。

全国鉄労働者の総決起を

われわれは、今次業務移管が、まさに業務の平準化の名のもと、過員の平準化＝「三人に一人」の首切りの突破口をなすものであり、組合間の対立を生み、組合の分断・解体を狙った凶暴な攻撃であることを見すえ闘いぬぎ、千葉と東京での共同の決起をつくり出すことに成功してきた。

この闘いこそ、広域配転＝十万人首切り阻止の巨大な突破口だ。動労革マルの裏切り、国労中央の屈服をはねのけ、二波の闘いの真価をかけ、全国鉄労働者の総決起実現へ向けさらに闘いぬこう。